

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話(03)3377-4649

振替 東京0158431 労金 東京労金本店No1154163

FAX(03)3299-5367

購読料 月額500円 6カ月前納制

### 〈もくじ〉

#### ■巻頭言■

政界再編論は金丸氏の大陰謀……………2  
泥棒の金庫番と「舞の海」精神……………3

——これでもいいのか参院東京選挙区——

資料1 参議院選挙の候補者選びに関する要望書……………5

これ以上の退職者は許さん!……………6

——組織拡大に全力をつくそう——

女が働きつづけること 永田悦子……………7

生活と時間、『ぼくは奴隷かな?』……………10

八百八十人の人員削減で妥結……………12

——札幌市交通局再建問題その(2)——

資料2 札幌市交通労働組合から組合員への手紙……………15

◇社会主義教会「一月一五日の会アピール」◇……………16

科学的社会主義の理論をみがき、不屈の闘志でがんばろう……………16

読者からのおたより……………17

# 旬刊 社会通信

NO. 496

一九九二年二月一日

一九九二年二月一日発行

(毎月一日・二日・三日三回発行)

## ■ 巻頭言 ■

## 政界再編論は金丸氏の大陰謀

田辺社会党委員長は、いったいどのような政治感覚をおもちなのか。一月二五日付各紙の記事にあらためてその思いを強くさせられたのは私だけではないだろう。

ジャーナリズムが「田辺氏の盟友」と伝える金丸氏が自民党副総裁として、各党を訪問、あいさつをしたというのだが、日経は「田辺氏と掛け合い」との見出しでこう伝えた。

「田辺氏が着く前に国会内の社会党控室を訪れた金丸氏は『社会党と一番、縁が深い感じがする。日朝問題があるからね』と問わず語り。現れた田辺氏が金丸氏の姿を見つけたらどうか」と声をかけ、二人の掛け合いが続いた。

金丸氏 そうすれば政治がうまく行くね。

田辺氏 自民党にも野党の立場に立つてもらおう。

金丸氏 社会党の委員長も自民党の総裁室に座って空気を知るといい。

田辺氏 (梶山氏に) 国対委員長、時々、部屋を変えよう。」

この二人に連合の山岸氏、それにドン・キホーテのような江田氏が、政界再編論の黒幕だ。それと日経、毎日の全国紙がはやしたてる。「参院選後、政界は激動」と。

政界再編論の背景と本質は何か。背景には二つある。一つは八九年の参院選で与野党が逆転したことだ。参院で自民単独法案通過は不可能。これで「社公民」路線は破綻し、「自公民」路線がもさくされることとなった。今次参院選での自民改選数は七六。この数字は過去に例がないほどに大きい。一般的には六五プラス・マイナス三であるからだ。だから自民が改選議席を維持することはきわめて困難。自民はこうして野党とりこみに死力をつくす。

もう一つは、自民党の支持基盤が動揺から崩壊への動きを加速させていることだ。行革の矛盾が自民支持基盤を直撃し始めたのだ。第一段階は八六年から九一年。その一幕は売上税導入論議、二幕は「三点セット+α」、三幕は国連平和協力法、PKO法案、そして四幕が小選挙区制導入論だった。

従来の自民党支持基盤は「農村地域+財界」。コメ自由化、九〇年国勢調査でも明らかになったように東北、四国、九州、中国地方の農村県の過疎化は農村地域を崩壊に導く。この地域からの自民党議員が六〇％をこえる。自民はこうして支持基盤を「都市サラリーマン層+財界」にシフトさせることを余儀なくされる、小選挙区制導入は自民の生き残りをかけた大陰謀だ。

自民支持基盤崩壊の過程は宮沢政権発足とともに、第二段階に入った。第一段階での矛盾は、世界の激動と日本の証券・金融恐慌下で大きくなることはあれ、小さくなることは絶対がない。ここから、金丸流の大陰謀が社会党に発せられる。「自民党で一番力があるのは経政会。この経政会と田辺さんいっしょにならないか。一つだけ条件がある。左派を切ってくることだ」と。しかし、自民党中央部、それに知恵を授けているブレーンの本音は「左足を切ってしまったら社会党は成りたない」というもの。これは当然のことだ。自民党とちつとも変わらない政党に社会党がなったとき、社会党の魅力は消えうせ、「反自民票」を集めることはできない。こうして、金丸・田辺主導の政界再編論は自民党一党支配に直結する。

いま社会党に必要なことは、自民党政治の腐敗と墮落が全国をおおっているのだから、反自民の旗を高く掲げ、国民大衆の怒り、やるせなさ、その克服の道を大衆行動をつうずるなかで示すことである。広島や東京、大阪のようなことをやっておれば、社会党への信頼は霧散し、政治不信が醸成され、その結果消極的自民党支持をふやすことにはかならないことに心すべきである。

(T)

## 泥棒の金庫番と「舞の海」精神

——これでもいいのか参院東京選挙区——

広島では野田哲氏を排し民社応援、大阪では西川きよし、そして東京までも森田健作の名が浮上。いったい社会党のえらい人は何を考えているのか。参院選でわざわざ敗けいそいでいると思えない。これでは泥棒に社会党の金庫番をさせているようなものだ。いくら社会党が消費税やPKO法案で汗水たらして成果をためこんでも、金庫番が気前よく民社や連合にさしあげていくのだからどうしようもない。東京、大阪という大票田のいくさが比例区の得票を左右することはいうまでもない。そこで社会党の看板をしまいこんでしまおうとは。大阪ではいざ知らず、四人区の東京選挙区では社会党候補で勝ちうるのだ。自二(内一は新人)、共一、公一のうち社会党なら体調不調と伝えられる自民党新人をくずすことはできる。消費税撤廃、自衛隊海外派兵反対、護憲の旗をかかげて有権者に認められるのは社会党だからだ。事実、都内の数総支部から、「公認候補でたたかうべし」との意見等が出されている。にもかかわらず党都本部三役は社会、民社、社民連の統一候補で「連合東京」にゲタをあずけてしまった。

たしかに前回参院選では東京の社会党は社民連の田英夫氏を擁してたたかわざるをえなくなつた。その時も党内では強い批判があつた。それでも民社とは手はくまなかつたし、田氏自身、社会党・護憲共同の会派に属し、今日ではPKO法案反対闘争に献身的にたつたかっている。だが今回は前回とはわけがあまりにちがう。

民社と手をくむとはどういうことか。PKO法案でいかに反対にまわつたとはいえ、それは、防衛庁の意向もくみ、自衛隊が国民の「日の丸の小旗に送られ海外に出る」条件を整えるための一歩後退にすぎない。社会と民社の間には深淵があることは誰もが知っている。

そして森田健作という人物である。四二歳のテレビタレントで、「日刊ゲンダイ」紙すら「政治好きというが、しょせんはタレントの幼稚なレベルにすぎない。こんな候補を東京で立ててくる三野党にどんな迷惑があるのか知らないが、明らかに選挙民をバカにしている」とのべている。彼自身の言をいくつか聞いてみよう。

「いま、自衛隊に入ろうとする若者のなかに、どれだけ純粹に愛国心を持っている人がいるのだろうか。……僕は愛国心って、すごく大切なことだと思っている。だから、今までも何回か愛国心についてしゃべったことがある。すると、必ずこんなふうに言う人がいる。『あいつは右翼だ！』まったく、やりきれない気がする。』(森田健作著『青春20周年なのだ』)。

「国民の過半数を得ていることを自民党はもっと強く認識していただきたい。次の選挙で党として、このスパイ法をもって国民に問うのはいかがでしょうか」(八五年四月に勝共連合系が中心に開かれた「スパイ防止法制定実現全国総決起大会」プログラムに掲載されたメッセージ)。

これでは「あいつは右翼だ」といわれてもいたしかたなからう。この他、防衛庁のカレンダーに早見優とやらで登場するわ、中曽根康弘の選挙の応援にいくわ、「右翼」といわれる材料にことかかぬ人物である。しかも御本人の台本で現在「当選確実」という名の

映画を作成中というのだから人をおちよくった話だ。まじめな党員なら眉をひそめて当然だ。

こんな男をかつぎ出したのは民社党の塚本元委員長である。実は別の候補者名があがったのだが、その人物については民社が「脱原発をいつているからダメ」と拒否。そんなことでひき下がったのも情けないが、民社党から「立候補は無所属でもいいが森田の当選後の所属会派は民社にしてくれ」と要求されているのだからあきれる（その上、森田健作周辺からは、「三月までは出演番組の契約があるので選挙運動できない」「『当選確実』の製作費を出してほしい」といった条件がつけられていると伝えられる）。

こうして、森田氏の民社以下の政治姿勢に加えて、所属会派問題が重大問題として浮上してきた。この会派問題は実は中央の動向と密接にかかわっている。連合山岸会長の呼びかけで、社、民社、社民連の党首会談が一月二日に開かれ、そこで参院選における「統一会派」づくりが協議されるはずだったが、民社が強硬で頓座した。民社と連合参院で統一会派を先行させるという動きも含めどうなるかは参院選の結果をみてのことだろうから、さわめて不透明なのである。

だから、百歩譲って「統一候補」を是とするとしても、当選後の所属会派は、社、民、社民連と等距離の無所属という確認は社会党としてとりつけておかねばならぬはずだ（連合参院」所属としても、「連合参院」と民社が統一会派をくむことになれば、もう社と等距離とはいえない）。ところが、社会党都本部三役は、「立候補は無所属」（こんなことは民社がはじめから了解している）、「所属会派は当選後にあらためて協議」ということで乗り切ろうとしているというのである。いくらなんでもそれはない。政治姿勢で支持者を失望させ、所属会派まであいまいにするようなことでいいのだろうか。かりに森田擁立はなくなつたとしても、また同じような枠組みで候補者を捜そうとすれば、貴重な時間がどんどんムダにされるにちがいない。

だいたいこの種の問題は政治の「プロ」の世界であつかわれると、「文句があるなら数億の金を用意できる対案を示せ」とひらきなおられ、党員や支持者は不満はあつても泣き寝入りしてきた。

しかし、都知事選の悪夢から一年足らず。もつと悪い状態になろうとしているのだ。確かに「金」をつくり勝てそうな「タマ」を用意するというのはキレイごとではすまないが、その苦労にくらべ、首都における社会党の影響力が激減させられたときの再建の苦労の方が幾倍も大変であろう。

森田氏はたしかに一定の浮動票を集めるかもしれない。しかし長年社会党がつかつてきた支持者のうちどれだけが森田氏に投ずるか。相当数が棄権か、共産党に流れるのは目に見えている。来年都議選ではまた社会党に入れて下さいというには、あまりにもいいかげんな社会党の選択だ。TV俳優の森田氏に投票する層が都議選で社会党に投ずると思えない。都議選惨敗はさけられぬ。比例区票ではまた東京が全国に多大の迷惑を与えることになる。

都知事選に続く醜態で、大原候補がかるうじてつなぎとめた熱心な社会党支持層が、党に見切りをつけかねない。せつかく反PKO闘争にとりくみ、護憲の社会党の役割の大き

さに自信をもった黨員、支持者は民社党と手をくむことよって、冷水をぶっかけられるだろう。社会党内外のもっとも大切な要素の気力は急速に減退させられ、党から離れていく。

「今さらさわいでも」といわれるのは承知している。だが舞の海的なきかたもあるではないか。玄人筋から笑われようと、相手がどれだけ大きかろうと、従来常識にとらわれず何でもやってみよう。舞の海の一所懸命の姿は、よく敗けるが実に気持ちがいい。汚れきった「玄人」の世界に必要なのはこうしたさわやかさだ。事は社会党とひいては憲法の将来にかかわるといふ大義があれば、多少の摩擦はやむをえない。

だいたい世の中は激動期に入ったようだ。「玄人」筋の政治的読みもはずれることが多い。逆に「素人」でも力をあわせて事をおこせば、イヤ気がさしていた人も氣をとりのおし、それなりの活路がひらけることもある。PKO法案反対闘争の経験からもそんな気がする。まだ、党本部委員会や大会で討議をつくして森田擁立を機関決定したわけではない。地位も金もない黨員、支持者の声をたばね、力をひき出し、各総支部から正しいと信ずるままに今一度行動にうつしてみようではないか。私の所属する総支部だけでも、そういう心意気の黨員がすくなくない。それが東京の社会党を救うことにすこしでも役立てばと思うが、いかがだろうか。東京の有志黨員や市民団体、文化人がたまりかねて「参院東京選挙区問題を考える会」をもち、なんとかしようと呼しあいを始めている。(石河康国)

資料1 日本社会党中野総支部女性対策部(九二・一・二〇)

### 参議院選挙の候補者選びに関する要望書

参院東京地区候補の選考で、社会党および支持者のなかで、大きな不安と心配がまさおこりつつある。党内からもいろんな意見書、要望書が出されている。

ここでは中野総支部女性対策部の「要望書」を掲載する。

七月の参議院選挙まであと半年、街角にはすでに他党の東京選挙区候補のポスターが貼られ、否応なく社会党の運動の遅れを痛感させられる毎日です。

社会党はなぜ独自候補の擁立をすすめようとしないのでしょうか。マスコミの伝えるところでは、自衛隊のポスターにも登場し、右翼的な言動で知られる男性タレントを、民社党、社民連と三党の連合候補として推すつもりとか。護憲の党である社会党が、自民党や民社党に近い立場のタレント候補に安易に相乗りとはどう考えても納得できません。こうした動きには黨員からも、社会党を支持する多くの市民からも疑問の声があがっています。自民党はいま、PKO法案や小選挙区制の成立で憲法を空洞化させ、コメの市場解放や消費税の税率アップで国民に有無を言わず負担を強いようとしています。私たちは、自民党主導の政治に歯止めをかける重要な意思表示の場として、参議院選挙を位置づけ闘いたいのです。

バブル崩壊後の金権スキャンダルで、いま自民党政治は揺らいでいます。国民の批判の声も高まっています。くらし優先の政治をめざす党として、護憲、平和と民主主義を守る立場を堅持し、その主体性を発揮してほしい、私たちが納得して応援できる社会党の独自候補者を一日も早く決定してほしい、これが私たちの切なる要望です。

さらに、比例区については、現在決まっているのは大労組出身の男性候補ばかりです。土井前委員長のもとで女性たちの政治参加が飛躍的に前進し、社会党への支持も大きく広がったことは誰しも認めるどころです。それなのに、今もって女性候補の名前はあがっていません。せっかく育ちはじめた女性の政治への関心と意欲を裏切らないためにも、候補者の半数は女性にし、しかも上位にランクしてほしい、これがもう一つの願いです。比例区につきましては、候補者選びにあたっては中央本部にはたつきかけをお願いいたします。

以上、私たちの率直な気持ちをまとめました。ぜひお聞きとどけただきたくここに要望いたします。

一九九二年一月二〇日

日本社会党東京都本部

日本社会党中野総支部女性対策部

委員長 洪沢利久殿

## これ以上の退職者は許さん！

——組織拡大に全力をつくそう——

昨年十一月に一人、十二月にまた一人と他労組の（労連と鉄産労の組合員）若い車掌が職場から去っていった。

二人共、昨年八月に車掌試験に合格し、鉄道学園での教育を終え、十月に着任したばかりで、東海道線の三島駅と浜松駅の出身である。この若い二人はいつやめたかもわからないほど、さみしく退職をしていった。

一人は駅長から「試験には落ちる様にするから、名前だけ書いてくればいいから」と、他の一人は駅長からのために「新幹線の車掌にはなりたくないし、遠距離通勤になるので」とことわったが、駅長の「俺の顔を立ててくれ」とつめ寄られことわりきれずの受験だったと言う。

国労の受験者を落とすために、第二次募集の中で各駅長のノルマの犠牲者として「急造の新幹線車掌」にされたのである。

運転士にも車掌をやらせている新幹線（JR東海）の車掌職場は東京車掌所で昨年一年間で約四〇〇人の車掌の内、一五七名が六六六日間も病気やケガで休みを取る程の労働条件下にあり、着任した彼らは、仕事のやり方でさえ相談する仲間も出来ずに、なやみつづけ、ひと月もたない内に他の民間会社の採用試験を受ける所までいってしまったのだ。

彼らが退職したことを聞いた、私達は新たな怒りを感じざるを得なかった。運転士の車掌代行の合理化攻撃に精いっぱいのたたかいたたかう中で、やっと仲間には笑顔がもどったのに、彼らの相談にのれなかった事である。

私達の分会では、今、五人組運動に取り組んでいる。まだまだ定期的な開催は出来てはいないが、仲間の話し合いから、家族の話し合い、他労組の仲間との話し合いへと発展させたい。

（国労東京車掌所分会書記長 織本潤一）

## 女が働らきつづけること

永田悦子

この『社会通信』は新しい情報をたくさん送ってくれるのでよく先が見えていいと思って愛読している。労組の中心が男性であるようにこの通信の中心も男性。女性の責任を問われているような気もして筆をとった。女が働き続けることがどういう意味をもつか、共に考えていただきたいと思う。

### 労働組合婦人部の闘いは女の自立

「全労協」に女性委員会が発足した(十一月十日)。いわゆる全労協の女性部である。国労・全水道・シェル石油などの女性たちが中心になって結成にこぎつけたと聞く。一方である大単産の女性部(婦人部)が消えるという。その組織内の女性たちは大きな不安をもって執行部に抗議する動きもあると大きく、執行部役員に女性が入る定員でいえばもう余地はないということは決定的といえよう。

私は日教組のOBである。日教組婦人部三〇万の中の一人として四〇年余、婦人部の意義を主張しほこりをもってがんばってきた。一九四七年二月一日の日本最初のゼネストの時、青年部と婦人部は先頭に立って闘った。そのストはマッカーサーの指令で中止になったことは多くの人が知っていること。その直後、この青年婦人のもえ上るエネルギーをおそれた占領軍GHQは、各組織に青年部・婦人部の解体通達を出した。理由は「二重権利はだめ」、基本組織の中で青年のことも婦人のこともやるから別に必要なしというのである。

その時断固として抵抗して婦人部を残したのは日教組と国労だった。半数以上女性であった日教組、男中心といわれる国労、対象的である。先日なくなられた先輩、高田なほ子初代婦人部長の話によると、何回もGHQに呼び出され婦人部解体を命令された。大きな男たちがふかふか椅子にふんぞり返って机の上に足をあげて英語でペラペラとなる。殺されるんじゃないかと思ったこともあったという。それでも同じ仕事をしていて賃金に差があるのはおかしい、このいかりは女しかわからんと思っただけで、と。男女差別の鉄鎖を断つために立ち上った婦人部である。そう簡単には引きさがれない、という思いであったという。しかし、その他のすべての組合の「婦人部」が解体された後、全国で一六〇万の女たちの解雇がおしよせてきた。その時女たちを守る組織はなかった。

一九五〇年代に入り合理化攻撃はきびしくなってきた。県の財政難ですぐやり玉に上ったのは共働きの女性、長野では四五歳以上の女性(教員)全員が対象となって首切り勸奨がはじまった。四五歳といえは一番働きざかりであり、子供の教育にも一番金がかかる年代である。理由は「女が多すぎる、家のことが心配では仕事に十分できない」等である。なぜ女だけが……。いやだなあと暗い雰囲気の中で多くの男性は「共働きは仕方ないよね。県に金がないからなあ」いっていた。そんな中で闘いが組織できるはずはない。それでもだんご退職勸奨をはねのけてがんばった先輩は全員通勤不可能な避地へとばされた。

昔も今も安あがりの労働力として企業の要求に応じて首を切られたり、不安定雇用でこ

きつかわれたり、そして家事育児の負担はいまだに女性に重い。労務管理がきびしくなつて定年まで働ける女性が少なくなった。くたくたになつて五〇歳そこそこで死ぬまで働くなんていやと退職をえらぶ。現職死亡率の八〇％は男性(日教組)。一方では管理職のほとんどは六〇歳定年までいてその後の職場まである。何とも腹立たしい。ゆっくり休んで昼の大气を吸うべし。そしていい発想で働くべし。

### 三六協定は何のために結ぶの？

十一月二八日『残業拒否』闘争に対して最高裁は不当な判決を出した。三六協定があるなら残業命令もあり得る、それを拒否した場合には処分もあり得る、というのである。今、ようやく労働省さえも「時短、週休二日制」をうたいはじめた中で何たることか。相変わらず最高裁は労働争議には反動的である。「三六協定は何のために結ぶのですか」。労働者側がしっかり考えて闘いを再構築しなければならぬ。

六年前、男女雇用平等法を求めて総評に結集する女たちは全国あげて一年以上闘った。総評の旗のもとにあらゆる行動をおこした。政府はもちろん、経済四団体にむけて三人五人のグループを組んで交渉申入れを行なった。中に入れてもらえず廊下で立ったまま一時間追及した経団連のあいっ、インギン無礼な商工会議所のあの男。今でも頭の中にやきついてはなれない。「労基法改悪につながる均等法はゆるせん、女を男の労働条件に合わせる男女平等は世界の流れに逆行するものだ……」と迫った。若者も先輩も迫力があつた。女たちは天下分目の闘いだと決意していた。山場の十一月、十二月は二七日まで労働省前に朝から夕暮れまで座りこみ、最終的にいくつかの歯止めで押しきられたが総評の力、あの団結は見事なものだった。「だった」と書くのが残念だが……多数を結集した連合に期待したのである。

あれから六年目、いわゆる「均等法」見直しの年に入った。政府と財界は一体となつて女も男なみの夜勤の職場へ拡大していつている。労基法が改悪されて現場のサービス超勤はふえた。かつて企業側が言っていた「男なみに働かないと男女平等なんか主張できないだろう」ということを、今は一部の労組の幹部が言いはじめたととき。(今まで腹の中にしまつておいた本音が出てきたのだろうか。労使協調とやらか。)

婦人部がなくなろうとしている組織では「今まで婦人部があつたから働き続けることができたのにこれからどうなるのだろうか。一人でがんばるしかないのだろうか。」という不安の声が高まっているとき。三六協定は歯止めになつていいのか。自分達のなやみ、苦しみはどこが解決してくれるのだろうか。均等法見直しの六年目に、超勤や深夜勤務の歯止めをどうするのか、単身赴任は不当だと思ふが、反対闘争はできないのか、人間らしく生きるために。

社青同の団結集会の職場交流の中で次のような話が出たという。「女の人は家事育児で早く帰るから仕事がまわらない、だから青年がその分残業してがんばろうではないか……」という声。分科会では禁煙にしたい、と提案したら、タバコ労組の青年が「外国のタバコに負けるから一本でもたたくさんすつてもらわないと……」という声があつたという。そこから残業とは何のために、だれのためにするのか等の議論ができたという報告をきいて、青年層に浸透している企業人の実態を知つたし、それで討論をした社青同の活動もさすがと



思った。

「なぜ日本人は死ぬほど働くのですか」

「企業側の人間になってしまっている」。私が働かないと会社がつぶれる。会社が競争に負ける、自分が他人に負ける、会社あっての自分だと思ひこんでしまう。

「それでいったい何を作っているの」。ありあまるほどの物、物。経済力が余っているからいらぬものを作る、いらぬ物を買う、いわばガラクタをいっしょうけんめい作って広告する、買わんでいい物を買う、捨てる、ゴミ処理に困っている、と考えてみればすぐわかることなのに——それをくり返している。「金もちになればなる程ひまがへっていくのが不思議だ」。それは情報に追いつけられていくから。

明日食うものがないという意味の貧しさはなくなったはずなのにやはり窮乏感があるのではないか。そして一方では働かなくても資産が生み出す総額の方がはるかに多いという不公平な仕組みがわかっていながら、自分も高いレベルに追いつきたいとあせる。

「暇だろう、と言われたら侮辱だと思う」。「まさか、忙しくて死にそうですよ」と反論して自己満足している。(労組にもこの種の対話がよききかれる)

忙しいから家族のことなどかまっていられない。忙しいから地域運動なんかできない。忙しいから忙しいからをかくれみものにして大事なことを忘れたり、避けたり、これでいいのですか。

#### 地域運動中心にがんばってきた日本婦人会議

千代田の婦人会議の会員が今年は次々と病気になる。「過労」ということが人ごとでなくなった。千代田の会員は〇〇名(東京では一番多い)、そのうち労組本部なり地本なりの書記が約半分いる。そのためほんとうの地域運動(住民との対話など)はあまりできないが、湾岸戦争、PKO法案反対等の闘いは他の婦人団体、民間団体と一体となって行動し女の力を発揮したと思う。

職場が忙しくなると婦人会議の行動や会議の参加率はおちていく。止むなし、とも思うが、そうした中でも子供二人、三人といえる人が「今日はつれ合いがあるので」と、うまくやりくりしてがんばる人、子供づれでくる人、我が家は埼玉の嵐山の近くという人もまじめに千代田で行なう会議に出て伝えるべきことを必死になってメモして帰る。だから女の会議はグラグラしていない。ある程度の会員の意見交換も交えながら「きばさ」と「きばさ」、運営せざるを得ない。全員を動かすところまではいっていないが、三〇年の歴史をもつわが婦人会議を強化していかないと、という危機感はある。総評もなくなった、平和センターも、総評センターも、原水禁も護憲も消えそうになっている今、平和や女性労働者の労働権を守り続けられないような不安を感じる。

婦人会議にたいした力はないが、職場で出せない不満、組織に言ってもどうしようもないと思うあきらめの感情をもっている人が婦人会議の場で訴える。ここに来てはじめて仲間がいる、ホッとします、という人がいること事実である。(ほんとうは労組が女の味方に立って労働権を守ってほしいのだが。)

自由な時間がない

西ドイツの学生が「ほしい物は何でもある日本ほど豊かな国はないと思っていたが、働いている実態を見ると、生活の中に自由な時間がない、自由意志で動けない、あんなに働いたら十年もたないだろう。また、日本の女の人は家庭で主権をもってきたというが、夫は自分の生活や育児に何も責任をもたず女性におしつけているのに気づかないのか、どっちも自由がなくてかわいそう」という。自分たちは、男女とも自立してどれだけ大きな自由を自分と社会にもたらす人間になれるか、ということを目標に教育された、と語る顔はさわやか。

日本の親も子も「社会に適應させる、する」そしてあわよくば出世コースをと思って育ててきたツケが目の前にある。男も女も、子育てのこと、足もとの生活そのものをしてっかり考え、主張して行動していいこうではないか。

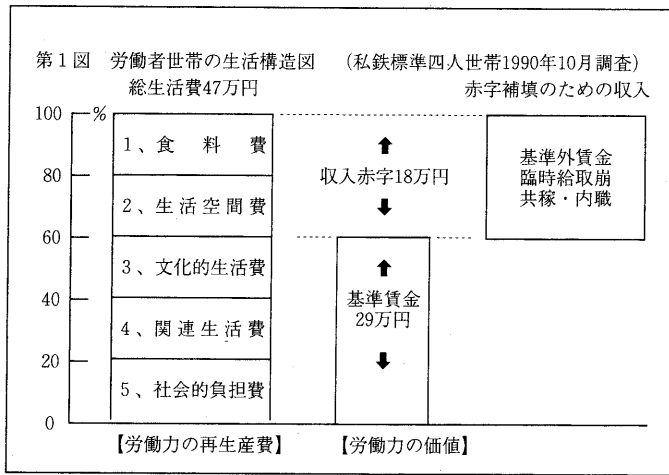
自由と平和な世界を築くために。

(日本婦人会議千代田支部長)

生活と時間、『ぼくは奴隷かな?』

労働力の価値(価格)とは

経済学では『消耗した労働力を再生産する過程』を『生活』と言う。生活費は、大きく五つに等分できる。(第一図参照)



第一の五分の一は、食料費の九万四千円だ。一人一食あたり二六〇円にすぎない。七五〇円のカレーライスは約一日分の食費だ。これが私たちの豊かさの実態だ。

第二の五分の一は、生活空間費の九万四千円だ。住居費三万一千円。水道・電気・家具など二万四千円。交通・通信二万三千円。損害保険料など一万六千円。全額住宅購入のため十年間蓄えたとしても一千万円程度。今の地価では『兎小屋』と云われる家さえ建てられない。

第三の五分の一は、文化的生活費の九万四千円だ。娯楽・教育(小一・中一)四万二千円。被服一万五千円。保健・医療・衛生一万四千円。小遣い二万三千円、一人一日あたり一九一円。これが私達の『ゆとり』だ。

第四の五分の一は、関連生活費の九万四千円だ。現在の生活を、過去の生活や将来の生活とつなぐための費用が関連生活費。生命保険料三万八千円。月賦などの返済一万三千円。

貯金三万一千円。だが、臨時給の取り崩しが三万七千円あるので預・貯金総額は毎月減る。次の月への繰越金はわずかに一万二千円、一人あたり三千円。かって貧乏な生活を『その日暮らし』と云ったが、今は『その月暮らし』だ。

第五の五分の一は、社会的負担費の九万四千円だ。税金・社会保険料七万三千円。共同負担費一万四千円。生活費の五分の一、賃金の三分の一生活費に使われることなく、収奪されている。そして収奪された金が、何にどのように使われているかが問題だ。

最近三〇年間に生活費は一八倍。賃金は一四倍。従って収入の赤字は二九倍。生活費を支える賃金の割合を『労働力の再生産率』と言い、私鉄の場合は六〇％程度。これは日本の労働者全体の水準だ。(第一表参照)

第一表 労働力の再生産率 (私鉄標準四人世帯・各年十月調査)

項目	一九六〇(S三五)	一九七〇(S四五)	一九八〇(S五五)	一九九〇(H二)	九〇/六〇
生活費(G <sup>2</sup> ) (円)	二六、四〇六	九九、四〇三	三三三、一八九	四七二、三〇三	一八倍
基準賃金(G <sup>1</sup> ) (円)	二〇、一四七	六三、八七二	一九三、一〇三	二九〇、五六二	一四倍
赤字(G <sup>1</sup> -G <sup>2</sup> ) (円)	六、二五九	三五、五三一	二〇、〇八六	一八一、七四一	二九倍
労働力の再生産率 (G <sup>1</sup> /G <sup>2</sup> ) (%)	七六・三	六四・三	六一・七	六一・五	〇・八倍

㊦ 私鉄バス労働者標準四人世帯の平均値。私鉄調査月報

昨年の私鉄の調査によれば、四七万円の生活費に対し賃金が二九万円よりないので基準外賃金一〇万円、内職・借金など四万円、臨時給の取り崩し三万円程で赤字を補っている。もし何らかの事情で基準外賃金を獲得できないとすれば、主婦労働で一八万円の収入が必要だ。あるいは、臨時給の取り崩し一八万円が必要。それは、半年では約一〇〇万円余の取り崩しを強制されるということだ。赤字補填のための収入(不安定収入とも言う)は二九倍と急激に増えている。

不安定収入の推移を見ると、臨時給の取り崩しは一五倍、基準外賃金は三四倍、主婦の収入は五五倍になった。(表二参照)

第二表 赤字補填の収入構造(私鉄標準四人世帯・各年十月調査)

項目	一九六〇(S三五)	一九七〇(S四五)	一九八〇(S五五)	一九九〇(H二)	九〇/六〇
不安定収入(円)	六、二五九	三五、五三一	二〇、〇八六	一八一、七四一	二九倍
基準外賃金(円)	※ 三、〇六七	※ 一九、〇七一	五八、六五〇	一〇三、四二七	三四倍
臨時給取崩(円)	※ 二、四四一	※ 一、一五二	四〇、五七七	三七、一三六	一五倍
主婦の収入(円)	※ 七五一	五、三〇八	二〇、八五九	四一、一七八	五五倍

㊦ 各年私鉄調査月報 ※印は、統計数値が無いので構成比の動向などから推計

要求と赤字額との関連

私鉄四人世帯の平均基準外賃金は一〇万三千円、それを獲得するための基準外労働時間は五六・五時間。したがって、一時間当りの平均時間外賃金額は一、八三一円。

赤字額一八万円を全額時間外賃金で補おうとすれば一か月間約一〇〇時間(一八万円÷一、八三一円〓九八時間)の時間外労働が必要になる。  
 過労死で倒れた一人の仲間、妻に『僕は奴隷かな?』ともらしたと云う。(『日本は幸福か』教育出版社)

生活費と労働時間と賃金の関係を見ると「生活費〓賃金×労働時間」上の式で理解できるように生活水準を変えることなく労働時間を短縮するには賃金を上げる必要がある。賃金を上げずに労働時間を短縮すると生活水準の引き下げを強制する結果になる。ではどのくらいの賃上げが必要か(第三表参照)

第三表 生活費の赤字と賃上げ要求額の関係

項目	一九六〇(S三五)	一九七〇(S四五)	一九八〇(S五五)	一九九〇(H二)	九〇/六〇
赤字額(円)	六、二五九	三五、五三一	二〇、〇八六	一八、七四一	二九倍
アンケート要求額(円)	三、〇〇〇	一五、四〇〇	五、〇〇〇	八、八五三	二七倍
赤字に対する要求の比率	四八	四三	四二	四五	〇・九倍
私鉄春闘要求額(円)	三、〇〇〇	一五、〇〇〇	二、一〇〇	二五、〇〇〇	八倍
私鉄春闘妥結額(円)	一、六〇〇	八、九五〇	二、二〇〇	一七、〇〇〇	二倍
税金社会保険料(円)	九一四	八、八一六	四、一五四	七三、三七九	八〇倍

④ 各年全組合員アンケート調査より。私鉄調査月報

私鉄の全組合員のアンケート調査は、組合員の要求を基礎に闘いを組織しようとするもの。他の単産ではやっていない。その平均要求額は、一九九〇年で一八万円の家計赤字に対して約八万円、家計の赤字額の約半分弱(約四〇%強)という。

要求と赤字額との関連・傾向は三〇年間変わっていない。一九七〇年代まではアンケート調査による平均要求額が春闘要求額になっていた。だが残念ながら、春闘の要求額は三〇年間に八倍よりなっていない。

労働運動の理念の再検討が必要ではないのか。

一方、三〇年間に労働者の生活費は一八倍なのに税金社会保険料は何と八〇倍。それについて、普賢岳の麓で民衆がどんなに悲惨な目に会おうと、台風で農民がどんなに悲惨な目に会おうと、法を盾に何もしようとしない。

法とは一体何なのだ。権力とは一体何なのだ。

今回は生活と労働時間の関係について検証したが、次回は生産と労働時間の関係について検証してみたい。生産量と労働密度と労働時間の関係は、左記の式のようになる。

$$\text{一人当たり生産量} \parallel \text{総生産量} / \text{労働者数} \parallel \text{労働密度} \times \text{労働時間}$$

生産量を減らすか労働者を増やさなければ、時間短縮は労働密度を高める。これが、労働時間短縮の資本の狙いだ。

(K)

## 八百八十人の人員削減で妥結

——札幌市交通局再建問題、その(2)——

私は本紙四九四号で「札幌市交通局の再建問題」について報告した。

その後の事態を含めて、今回の合理化問題の狙いが更に明らかになってきた事と、連合下の労働運動がどうなっていくのかについて特徴点が出ているので、前回の続きを報告する事にしたい。

### 組合、当局からの「手紙」が届く

前回の報告では、当局から提案された合理化案について具体的な詰めを組合が始めたところで終わっている。

しかし、私は最後に今回の合理化の狙いが、赤字の数字でなくて「職員一人々の意識改革が問題とされている」と指摘した。

今回の最終妥結を見てもそれか間違いない事が明らかになっている。

連合下における労働運動が、最終的には、働く者へのしわ寄せと意識改革（労働者としてのモノの見方、考え方を変える）を迫ってくると思う具体的な証である。

今回も労働者の一番の弱点である事実「賃金切り下げ」「昇給延伸」と言う材料を使っでゆさぶられた。

そんな中で、年末にかけて組合、当局から一人々に「手紙」が届いた。労組からは十一月二十七日付け、当局からは十二月一日付けである（資料2参照）

私はある地下鉄乗務員から見せてもらった。

読んでみて、一体、組合と当局に云おうとしている事のどこが違うのか分からない位の文書に驚かされた。

その組合員から率直に「実は組合員の住所は、本人が書いて自宅に郵送している」と聞かされ、更に驚いた。

組合の手紙は①「職員の大幅削減をのまなければ、ベアの見送り」があり、その後に②「赤字は収入不足である」事、③責任は当局にあるが、放置しておくが大変な事になる④市の一般会計からの援助を求めらば、一定合理化ものまざるを得ないし今まで以上に仕事はキツクなるが、家族の協力でのりこえてほしい等々の内容になっている。

当局の文書も組合の文書と柱は同じであり、表現の仕方が違うだけである。

結局、「一人も路頭に迷わせない」と言う言葉の下で、全てを押し切ると言う事である。労組も組合員を説得させる大きな柱にしていると言う事である。

同時に、今回の解決策の中で、「交通局職員だけでなく、市職員全体からの希望退職をつる」と言う事が明らかになり、単に交通局だけでなく、市労連（市職・市病・交通・水道・市労）全体の問題として拡がってきている事が明らかになってきた。

### 市民一人あたり四万円円の負担で再建（？）

札幌市の方は十二月二十九日に「市交通事業再建」(案)を発表した。

柱は「来年度から一〇年間で約七〇〇億円を一般会計から繰り入れる」と言うもの。

その結果、市民一人当りの負担額は、四万一、四二〇円になる。

当局は「三、四年後に収支は黒字に転化する見通し」と公表している。

この七〇〇億円の内訳は、①建設中の地下鉄負担分の約一割（二三三億）援助、②地下

鉄駅福祉のエレベーター設置建設費の全額(約五〇億)、③福祉割り引きの全額補助(約六〇億)、④民間金融機関への返済分の約六割(三〇六億)となっている。

交通局の「経営効率化」と「需要喚起策」により、約七割近くが解消されるが、残りの分が解消されずここへの援助となっている。

しかしこの七〇〇億円は、総合病院なら二つ、小学校なら三五校が建つ金額である。道東の釧路市の年間予算と同額である。

しかし「これで本当に再建できるのか?」とマスコミですら云わざるを得ない。

「…しかし問題もある。『親方日の丸』的な体質との指摘がある労使双方の意識改革が本当に可能なのか。財政支援の影響で市民サービスがシワ寄せを受けないか。交通局職員の内八八〇人と云う人員削減で安全輸送は確保出来るのか…」(12/30朝日新聞)

#### 労使臨大で妥結案を満場一致で承認

労組は、十二月二七日の拡大闘争委員会①勤務時間の延長②諸手当の廃止③希望退職の募集④機構全体の見直しで八八〇人の削減案を承認し、同三〇日の臨大で満場一致で承認した。

大会では「財政赤字がこれ程になる前に当局に何も云わなかった組合の責任も免れない」「乗る立場になってモノを考える意識改革が職場に浸透していない」「市当局が経営責任を明示してない。我々は政治の犠牲になったのでないか」と云う意見が相ついだ。

前回にも書いたが、組合員にとっては指導部に対する不満がある中で、シワ寄せが一方的に組合員にくる事に対するイラダチが随所で出されていた。

職場の組合員の中では、「合理化案が出てから執行部がやったのは、何回かの職場集会のみだ。腕章着用闘争も時間外拒否闘争も一切の抗議行動がなかった。これだけ大きな合理化攻撃なのに、全く抵抗なしで幹部中心で決められた。労働組合の体をなくしてない」とぶつけようがない不満が叫ばれている。

同じ合理化攻撃でも、職場含めて抵抗闘争や抗議行動が少しでも組織されていれば、まだ妥結に対する組合員の反応が違っていたと思う。

今回の合理化問題を通して、あらためて「連合下の労働運動のたどる道」が、職場にどう表われてくるのか考えさせられた。

今後は、職場で労使一体となった「意識改革」が進み、それに併なって労働条件の悪化がさらに進むのは避けられないだろう。

組織が組合員を守れない事がハッキリした今、残された道は組合員個々人が「自分で自分の事を守る」しかない。

行きつく先は、「過労死」の増大が現実化してくるだろう。

(山川守・フリーライター)

資料2 札幌市交通労働組合から組合員への手紙(九一・十一・二七)

## 再建が可能なら合理化はやむをえず

新聞、テレビなどマスコミを通じて連日のように交通局の再建問題が報道され、ご家族の皆様は「交通局はこの先どうなるのだろう、民営化されるのだろうか?」「国鉄みたいに解雇されるのだろうか?」「給料はどうなる・ちゃんと払ってもらえるのだろうか?」などの不安と焦りがつのついているものと思われまます。その気持ちにお応えすべく、今日、お手紙を差し上げました。

交通局は組合に対して、三一〇〇人の職員のうち一〇一〇人を削減する提案をしました。そればかりか一年間昇給を停止することなども含まれています。また、この合理化案についての交渉が十二月中にまとまらなければベースアップ(人事委員会勧告)が見送られる可能性も高くなっています。交通局の台所事情はどうなっているのでしょうか? 地下鉄事業では、今年度の人件費予算一四〇億円のうち約八〇億円が不足(六〇億円しかない)しており、バス・電車事業でも二七億円が不足すると見込まれ、このままいけば、給料の遅配・欠配が生じることにもなりかねません。

それでは何故、こんな深刻な事態になったのでしょうか。地下鉄でいえば、一年間で三〇三億円の利息支払いに対して、料金収入が二九六億円しかありません。人件費すら生み出せない仕組みになっているのです。バス・電車事業では市民の足を確保するためには赤字覚悟で運行しているのです。

札幌市内での公共交通利用者の六〇%は交通局の地下鉄・バス・電車が担っているのです。札幌の市民生活にとって、かけがえのない重要な存在なのです。だから、札幌市が道路や下水道をつくるのに金を使うように、責任をもって財政支援することが決定的に必要なことなのです。

札幌市の財政支援を抜きにして交通局の再建はあり得ません。ここまで経営を深刻化させた、札幌市と交通局の責任は重大なものがあります。組合員やその家族に責任はありません。しかし、労働組合は、組合員とその家族、約一〇、〇〇〇人の生活を守る責任があります。このまま放置しておくとは民営化などの危機が必ずくるものと思われまます。

私達もつと効率的に、少ない職員で働き、札幌市が財政支援を行うことにより、交通局の再建ができるならば、合理化はやむを得ないと判断しました。(勿論全部認めるということではない)

ご家族の皆さんに訴えます。労働組合は、市役所の職員と給料の差別をしたり、解雇(クビキリ)は絶対させないことを札幌市や交通局に約束させます。一人として組合員を路頭に迷わせません。決して交通局の将来を悲観しないで下さい。「危機」だと思つより「再建」に立ち上がっているのだと感じて下さい。私達の努力で必ず交通局を再建させます。そして、組合員とその家族の生活を守り将来に明るさを持てる職場を作ります。

ご家族の皆さんにお願いがあります。職場での仕事は今よりきつくなることは避けられませんが、それだけに、ご家族のご協力が何にましても必要なのです。どうか動揺しないで、家庭を守って下さい。私達は職場と生活を守るため頑張ります。

## ◇ 社会主義協会「一月一五日の会」アピール ◇

## 科学的社会主義の理論をみがき、不屈の闘志で頑張ろう！

世界と日本の社会主義運動は、これまで一度も経験したことのない厳しい試練の前に立たされています。東欧の社会主義につづいて、世界最初の社会主義国として世界の働く人々に大きな希望と勇気をあたえてきたソ連邦も、革命後七十余年にして自ら解体し、歴史の舞台から退場するという予想もしなかった事態が起こりました。

しかし、むしろ、このことによって十月社会主義革命の歴史的意義と、その果たした大きな役割とが消失したわけではありません。十月革命は、資本主義から社会主義への突破口を切り開きました。

十月革命によってともされた社会主義の火は、第二次大戦でファシズムを打ち破るのに大きな役割を果たし、東ヨーロッパ、アジアとりわけ中国大陸から、ラテン・アメリカの一角にまで燃えひろがりました。それは、また、帝国主義の長年にわたる植民地支配からの解放を求めるアジア、ラテン・アメリカの民衆のたたかいに、大きな力と激励とを与えました。

いま、ソ連社会主義の崩壊は、全世界の労働運動、社会主義運動、帝国主義の支配からの解放をめざしてたたかっている勢力に、大かれ少なかれ、痛手をあたえずにはおかないでしょう。反社会主義宣伝も一段と厳しさを加えつつあります。しかし、私たちは、これにたじろぐことなく、勇気をふるって、たたかいに立ち上がり、社会主義の火をまもりぬくために全力をあげねばなりません。まちがっても、たらいの汚れた水と一緒に、赤ん坊をも洗い流す愚を犯してはなりません。

ソ連、東欧の社会主義の崩壊の根本原因が、帝国主義の包囲下での社会主義建設という困難な条件下で、科学的社会主義の大道からの逸脱にあったことは、いうまでもありません。私たちは、この貴重な教訓を強くかみしめ、同じ誤りを二度と繰り返さぬため、科学的社会主義の研究と学習、その具体的条件への正しい適正のための骨身を削る努力を、さらに一段と強めなければなりません。

いうまでもなく、ソ連・東欧の崩壊は、資本主義の矛盾の緩和や、まして資本主義の勝利を意味するものではありません。周知のように、アメリカをはじめ資本主義諸国もさまざまな社会的・経済的矛盾、対立と困難な課題を抱えています。それらが火を吹いて大爆発を起こすのを、かろうじておさえているだけといっても、決して誇張ではありません。

資本主義経済は一昨年来不況局面に突入し、人べらし「合理化」によって失業率がじりじりと上昇しつつあります。特にアメリカでは、金融・不動産不況、銀行倒産などによるホワイトカラーの人員削減が続いて、自動車をはじめ製造業での大規模な人べらし「合理化」が強行されつつあります。すでに失業者は八百万人（失業率七％）を越え、ホームレスは二百万とも三百万とも報じられています。貧富の格差は未曾有に拡大し、エイズ、麻薬、殺人の多発等、社会的退廃は異常なひろがりを見せています。「双子の赤字」は依然



として深刻であり、ブッシュ訪日にみられたように、日米経済摩擦とアメリカの対日要求は激化の一途を辿っています。

日本の独占資本、政府・自民党は、さらなる「合理化」、賃金抑制、長時間・過密労働、社会保障の改悪、大衆増税、農民切捨て等々、労働者・勤労大衆の一層の犠牲の上に、この難局を切抜けようとしています。同時に、アメリカの「新世界秩序」構想の一翼を担うため、国連のPKOへの自衛隊の参加、海外派兵を、国会で幾度も阻まれたにも拘らず、あくまで強行しようとしています。その狙いが念願の憲法改悪にあることはいうまでもありません。当面、通常国会での「PKO法案」の廃案をめざして、強大な大衆行動を組織することが緊急の課題です。社会党にたいする右傾下策動を阻止し、基本政策を堅持し、政府・自民党との対決姿勢を貫いて、参議院選挙闘争に勝ちぬくためにも、ますます激化する「合理化」攻撃をはねかえすためにも、下からの大衆行動を積み重ね盛り上げていくことが、さわめて重要であります。

国鉄闘争も、決定的な段階をむかえています。最後の勝利を一日も早くかちとるため、国労にたいする支援と連帯の活動をさらに一段と強化することが不可欠です。全通の四・二八不当処分撤回闘争にたいしても、「全ての郵政労働者への権利破壊攻撃と受けとめ」、共にたたかう支援態勢づくりに積極的にとりくむよう強く訴えます。

「ある瞬間の感激による英雄的な行動は誰にもまねられる。どのような暗黒の時にも最後の勝利を見つめていることのできる確信のみが、最後の勝利をもたらすものだ」(山川均)。科学的社会主義の理論をみがき不屈の闘志を秘めて頑張ろう!

## ◇ 読者からのおたより ◇

私の政治レポート この一年間市議会および市政の場で私が取り組んで着たおもな事項です。中央図書館、地区図書館の建設、パートタイマーのため「パートタイマーのしおり」を市に発行させる。パート、臨時職員の皆さんの労働条件改善(二部実現)。下水工事の早期完成、水害対策。児童館の建設。高齢者の福祉施設の建設の充実。(千葉・K)

走りながら考える 一九九二年もまた政治の年。社会党の前進で逆転参議院を確実にし、平和、主権在民の憲法を日常の生活に具体化したいものです。しっかりと瞳をひらき、声をひろく聞き、沈黙で後悔することのない申年に!! 走りながら考えます。あせらず、おくれず。

(東京・N)

ともに五〇号 今年のうちに一九八七年六月から始まった「兵庫通信」が五〇号を迎えます。一九八九年一二月から始まった「たたかう仲間」が五〇号を迎えます。どちらも一つの通過点ですが、もともともと役立つよう努力を重ねていきたい。

(神戸・M)

一年をふり返り 昨年は国内外とも激動の年でした。おわびすること―都知事選・自治体選、悲しかったこと―湾岸戦争と反動化、嬉しかったこと―PKO法案阻止。今年が良い年にしたいものですが、心配なこと―経済・環境・国際情勢、やりとげること―平和憲法を世界に広げる。住宅、リサイクルの条例制定・高齢者障害者の福祉向上、祈ること―皆様のご健勝・ご健闘・絆。参院選たいへんです。がんばらないと。

(東京・H)

届くのが楽しみ 『社会通信』が届くのを楽しみにしております。正義のペン社会通信の前進に期待しております。  
(神奈川・O)

若者と学習会 今年も平和運動、町おこしにがんばります。現在若者五名と月一回の学習会をつづけています。  
(群馬・T)

春の到来のために 人類の歴史上でもっとも大きな逆流の中に生きていることを、日々実感できることを喜びたいと思います。国労にとっても、闘争団が二度目の厳しい冬を迎え、中労委は暫くに三月末までに解決を言明しました。「冬来たりならば春遠からじ」の感ひとおです。闘争団の仲間と全国の支援者の偉大な力の結晶だと思えます。しかし、春の到来にはいく度かの大寒波はつきものです。油断することなく事態に対処し、勝利を確信して一喜一憂することなく、雑音にも惑わされず、着実に「解雇撤回・JR復帰」の完全勝利に前進したい。  
(国労・W)

千名結集したい 三池大災害抗議集会に、大変厳しい情勢のなかで結集され、また集会への協力を頂きましたことに心からお礼申し上げます。本年はCO協定(労使間協定)の改定(三年毎)年度になり、三井資本のCO患者抹殺の攻撃を許さないために闘いを強化します。また裁判闘争も結審を迎えるために本年の十一・九抗議集会に千名の結集を実現させなければならぬと決意しています。  
(三池大災害原告団)

時短の意義 時間あってこそ人間は発達する。勝手にできる自由な時間のない人間、睡眠・食事などによる単なる生理的な中断は別として全生涯を資本家のための労働によって奪われる人間は、牛馬よりも憐れなものである。彼はからだをこわされ、心をけだもの化された、他人の富を生産するための単なる機械である。しかも近代的産業の全歴史の示すところでは、資本は、もし阻止されなければ、全労働者階級をこの極度な頹廢状態に陥しいるために遮二無二の働きをするであろう。  
(山梨・S)

中労委十二・二五見解に不満 国鉄闘争は一二・二五中労委見解で、新たな局面を迎えます。しかし重大な問題を含んでいるようです。まず、JRが再審査を申したたために係争されている不当労働行為事件(初審命令は生きている)であるのに「問題解決」と表現、本質を隠蔽しているのではという点です。二つめは、「案を示し」といつつ当事者である闘争団や家族の期待は裏切り、「見解」の中では「内容」を明らかにしていないことです。この態度は、不当労働行為の根絶を期す任務を放棄したものであるといしかありません。三つめは、「凍結扱い」となった東日本「出向」事件の中間整理を想起させるように「労使合意を」と強調し、主体的な「権限」も「決意」も示していないことです。しかも、「合意に至らない場合は…最終的な解決案を示して問題の決着を図る」というのです。少なくとも中労委は、「判定和解の作業を開始する」と表明しなければ不十分なはずです。これら再三の中労委の思いがりは、度々の要求切り下げの国家的な国労内部の議論や動きに起因しているのではないのでしょうか。戦いはこれからです。国家的不当労働行為との戦い、人権闘争です。そして交通権Ⅱ国民的な闘いです。中労委には、もはや一日も早い「再審査請求の却下」命令を求めることが再出発点と考える「見解」でした。  
(国労・S)